

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 9 2 2. 研究機関名 東京工科大学
3. 研究種目名 基盤研究 (B) 4. 研究期間 平成21年度～平成24年度
5. 課題番号 2 1 3 0 0 3 1 6
6. 研究課題名 博物館における鑑賞と鑑賞支援における社会的・工学的ヒューマンインタフェース研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
0 0 3 2 5 8 9 6	ヤマザキ アキコ 山崎 晶子	メディア学部	准教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
1 0 2 5 2 5 9 5	クノ ヨシノリ 久野 義徳	埼玉大学・大学院理工学研究科	教授
2 0 4 6 6 6 9 2	コバヤシ ヨシノリ 小林 貴訓	埼玉大学・大学院理工学研究科	助教
9 0 4 4 7 8 4 7	イケダ ケイコ 池田 佳子	関西大学・国際部	准教授
4 0 3 4 3 3 8 9	オノ テツオ 小野 哲雄	北海道大学・大学院情報科学研究科	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、ミュージアムにおける鑑賞者とガイド、鑑賞者同士の鑑賞の相互行為としてのありかたを社会的に分析し、その分析結果からロボットなどを用いてミュージアムにおいて適切な鑑賞支援をすることを目的としている。そのために、1) 鑑賞者と解説者の相互行為において言語的行為と身体的行為の協調のありかた、2) また日本のみならず、多文化的な状況におけるお互いの協調のありかた、3) そして熟達したガイドの観客への解説の社会的分析を必要としている。

このような鑑賞の社会的分析に基づいて、社会学と工学の協調に基づいた適切な鑑賞支援を行っている。本年度は、多文化的状況における鑑賞とその鑑賞支援の分析を行うため、日系アメリカ人や日系カナダ人の解説者が鑑賞者に解説を行う場面を撮影した。

また、鑑賞支援ロボットの開発を引き続き行った。この成果として、採択率の低いACMのHRI2012にfull paperとして採択された。

本研究の意義は、観賞における解説の意味を相互行為において明らかにしたことである。さらに重要なことは、今年度行った、ハワイ、バンクーバーでの、日系人の語りの分析である。日系人に関する優れた研究は沢山あるが、日系人が他者にどのように展示を通じて解説を行い、他者の知識や関心に応じてどのように調整を行うかということには、あまり関心が注がれていなかった。しかし、本研究では関東社会学会の発表においてその一端を明らかにしたことも、今年度の重要な業績の一つである。

10. キーワード

- (1) 社会学 (2) 相互行為 (3) 教育工学 (4) ミュージアム
- (5) 鑑賞支援 (6) ヒューマンインタフェース (7) エスノメソドロジー (8) 相互行為分析

11. 現在までの達成度

下欄には、交付申請書に記載した「研究の目的」の達成度について、以下の区分により自己点検による評価を行い、その理由を簡潔に記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。
 <区分>①当初の計画以上に進展している。②おおむね順調に進展している。③やや遅れている。④遅れている。

(区分)	②おおむね順調に進展している
(理由)	ミュージアムでの調査とともに、分析を重ねることによって、鑑賞研究も鑑賞支援研究にも成果が現れている。

12. 今後の研究の推進方策

本研究課題の今後の推進方策について簡潔に記述すること。研究計画の変更あるいは研究を遂行する上での問題点があれば、その対応策なども記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本年度は最終年であるため、成果を論文として出版することにとめる。鑑賞支援研究においても同様である。

13. 研究発表（平成23年度の研究成果）

※ 「13. 研究発表」欄及び「14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況」欄において記入欄が不足する場合には、適宜記入欄を挿入し、それによりページ数が増加した場合は、左端を糊付けすること。

【雑誌論文】 計（ 2 ）件 うち査読付論文 計（ 1 ）件

著者名	論文標題				
池田佳子	政治家のインターアクション				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
日本語学	無	31(4)	2 0 1 2	36-50	
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）					
なし					

著者名	論文標題				
Keiko IKEDA	L2 Speakers' Use of Honorific Styles in Telephone Conversations				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
Studies in Language Sciences	有	10	2 0 1 1	119-136	
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）					
なし					

著者名	論文標題				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）					

〔学会発表〕計(10)件 うち招待講演 計(1)件

発表者名	発表標 題	
A. Yamazaki, K. Yamazaki, T. Ohyama, Y. Kobayashi, Y. Kuno	A Techno-Sociological Solution for Designing a Museum Guide Robot: Regarding Choosing an Appropriate Visitor	
学会等名	発表年月日	発表場 所
HRI2012	2012/3/7	Boston, USA

発表者名	発表標 題	
山崎 晶子、池田 佳子	戦争の記憶とミュージアム 日系人博物館における「日本人」と「戦争の記憶」の展示 と語り	
学会等名	発表年月日	発表場 所
第59回関東社会学会	2011/6/18	明治大学, 東京都

発表者名	発表標 題	
M. A. Yousuf, Y. Kobayashi, A. Yamazaki, K. Yamazaki, Y. Kuno	A Mobile Guide Robot Capable of Formulating Spatial Formations	
学会等名	発表年月日	発表場 所
FCV2012	2012/2/3	川崎国際交流会館, 神奈川県

発表者名	発表標 題	
M. A. Yousuf, Y. Kobayashi, Y. Kuno, K. Yamazaki, A. Yamazaki	Establishment of Spatial Formation by a Mobile Guide Robot	
学会等名	発表年月日	発表場 所
HRI2012 LBR	2012/3/6	Boston, USA

発表者名	発表標 題	
T. Ohyama, Y. Maeda, C. Mori, Y. Kobayashi, Y. Kuno, R. Fujita, K. Yamazaki, S. Miyazawa, A. Yamazaki, K. Ikeda	Implementing Human Questioning Strategies into Quizzing-Robot	
学会等名	発表年月日	発表場 所
HRI2012 Video	2012/3/8	Boston, USA

発表者名	発表標 題	
望月博康, 小林貴訓, 久野義徳	鑑賞者を適切な位置に誘導するガイドロボット	
学会等名	発表年月日	発表場 所
電子情報通信学会総合大会	2012/3/21	岡山大学、岡山県

発表者名	発表標 題	
X. Xin, Y. Kobayashi, Y. Kuno	Robotic Wheelchair Moving with the Caregiver at the Selected Position According to the Situation	
学会等名	発表年月日	発表場 所
電子情報通信学会総合大会	2012/3/21	岡山大学、岡山県

発表者名	発表標 題	
Keiko IKEDA & Don BYSOUTH	Discursively constructed modality in Japanese conversation: A case of group discussion	
学会等名	発表年月日	発表場 所
Acquisition of Modality (招待講演)	2011/7/9	University of London SOAS イギリス

発表者名	発表標 題	
Don BYSOUTH & Keiko IKEDA	Accounts of lying and deception in the therapy session.	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
12th International Pragmatics Association Conference	2011/7/8	University of Manchester イギリス

発表者名	発表標 題	
Bysouth, D., Ikeda, K., Hansen, S., Jongmi, J., Cui, L., Furukawa, T., & Bysouth-Young, D.	Attributions are for the making: A cross-cultural, multi-lingual discursive psychological reexamination of the Heider and Simmel attribution paradigm	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所
Discourse, Conversation, Communication Conference	2012/3/22	University of Loughborough イギリス

〔図 書〕 計 (0) 件

著 者 名	出 版 社		
	書 名	発 行 年	総ページ数
		∴ ∴ ∴	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出 願〕 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取 得〕 計 (0) 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

--